

つて是等の地表の物質(海水及び大氣)が、地球の内部から火山といふ通路を経て供給されたものであるとの考へに違するのである。

上述のことを約言すれば、火山に於ける岩漿の上昇は、地殻變動を起すと同一の歪力の爲めに起るか(中心噴出)或は單に地殻の重力の爲めに起る(裂罅噴出)、而して中心噴出の場合には岩漿が淺所に上昇して後は、水蒸汽及び其の他の瓦斯の力が大に其の噴出にあづかつて力あるものである、この水及瓦斯の根原は決して地表にあるのではなく、全く地球内部より來るのである。

### ●日本産のどくくも類に就て(一)

岸田久吉

どくくも科 Lycosidae には三個の亞科がある、第一 *Pisurinae* 第二に *Lycosinae* 第三に *Cleninae* で、此の中第三に隸屬すべきものは日本では得られたことが無い。第一第二に收容せられたるものは今までに四十一種知られてゐる。しかも是等は日本以外に於ては採集せられない言はば固有種なのである。

どくくも類は漂泊性であるから長い強い脚を有して居

(完)

る、頭胸部は大抵長圓形で前端は細くなつて居る、眼は八個それが三列に並んで居るから誰でも能く他のくもから識別することが出来る。習性上著しいことは前記遊牧性の外に雌が自分の産んだ卵のはいつて居る卵囊を口か又は蜘蛛クモ疣かクモで支へて走つてゐることと、住居にの外決して立派な網を作らないことである。

一寸見ただけではどくくも類ほどの種も皆同一種に屬する者と思へる位能く似て居る。マツコツクやヘンツやエマアトンやモンゴメリの記載したアメリカ産のものには随分著しい特徴のあるものがあるが其の他の國から報告せられたものは大抵前述の如きものである。

日本産のものも此の例に漏れ無い、特にどくくも屬乃ち *Lycosa* (*Tarville* 1804) に於ては甚しい。特別の興味を以てこの類を調査して居る人も外國にはあるそうで米國出版の一書は私の手許にも一部來てゐるし、獨乙にはフリードリヒ、ダアルがドイツ産本科のモノグラフを出すと云ふ評判が餘程前から高かつた或はもはや出版せられたかも知れん。

私もこの類には特別の注意を拂つて居た一人で後にはモノグラフとキイとを作りたいと思つて居る。今では大分諸方の標品も集まつて來るし海外のものも少々所持し

てゐるので研究上都合が良くなつて來た、追々學界に發表する考である。けれども注意して採集したらまだ澤山日本に於ても面白いのが出るだらうと思ふ。かはつたのに氣をつける許りが能では無いことは勿論であるが併しこれも大切な事には相違無い。誌友諸君で御熱心な方は私へ知らせてくださいたら採集に就ての注意書も拵へたのがあるから差上げることが出來ます。

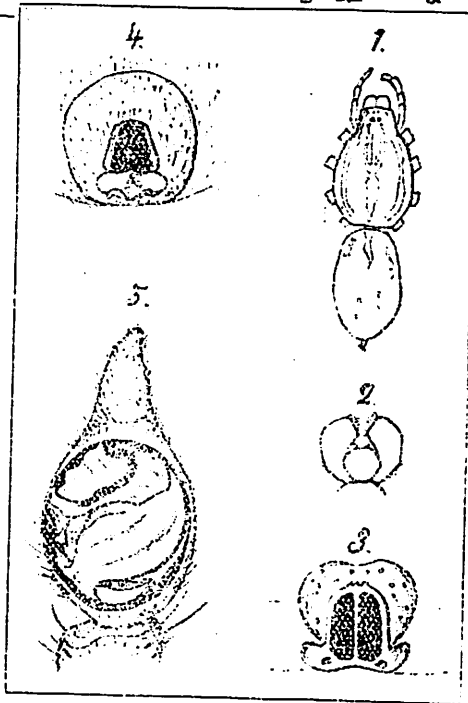
近頃調査が出來た種類を少しく次に記載しやう、先輩の報告中には最もこの類の鑑定に入用な *Palpal organ* と *Ephigyne* の圖を缺いて居るのが多い、ひどいものになると測定もせず各部の形状も記さず唯色彩許りを長々しく書いて居る、私のはそんな亂暴なことはして無い學名だけ作つて記載の無いのさへあるこんなのは大概效力無きものとして抹殺したいと思つて居る。*Tyocosa* の種数は今四百種を越して居るが日本には二十九種知られて居る、その中最も知られて居ないものから記載してゆく。

*Tyocosa Joshidana Kishida*

和名 ウゼン(羽前)ドクグモ新稱、

雄は知られず 雌純全長一三・五ミリメ 頭胸部六・五ミ

リメ長 四・五ミリメ廣 腹部七ミリメ長 五ミリメ廣  
 歩脚の長さ I 一・五・五 II 一・六 III 一・八 IIII 二・〇ミ  
 リメ (第一圖第二圖第三圖参照)  
 頭胸部——上面長し胸部は長圓形兩側低し 大体紫黑色中央とその左右に合計三個の茶色な縦線あり



上顎は倒卵狀の柱黒紫色を帯べる濃セピアを呈す下顎はい字狀に彎曲せる卵狀筒形 下唇は稍扁平なる圓形 共に濃血褐色先端淡色 胸板九角形前縁最長後端尖る 黒色に近き血褐色にして茶色の毛を生ぜり

觸鬚長さ七ミリメ 暗茶褐色先端黒く基脚淡し——歩脚は淡黄褐色先方次第に紅色を帯ぶ各節黒色の輪紋あり——附眼の大きさの順序は後列中眼最大同側眼 前列中眼同側眼(最小)の如し後列眼の差は特に甚だし

腹部——上面肥大せり地は茶褐色大部は黒し鈍なる紡錘形を呈す——側面偏卵形上部は上面と同色下部は黄白色——下面橢圓狀卵形 黄黒色 前端黒色となる 蜘蛛は帶黒セビア エピシンは前端凹頭隆起す

本種の産地は羽前國米澤市熊野神社境内なり 吉田貞次君の採集にかかる(四十三年四月十八日)同氏のくも標品 No 5. No 12. No 18. 乃ち之なり。

*Lycosa virgata* Kishida.

和名スデプト(條太)ドククモ新稱

雄全長八ミリメ 頭胸部四五ミリメ長 三・五ミリメ廣

腹部四ミリメ長 二・五ミリメ廣 歩脚の長さ I—

二四 II—二三 III—〇 III—一六・二ミリメ (第四圖

第五圖参照) 雌全長九五ミリメ 頭胸部五ミリメ長

四ミリメ廣 腹部四・五ミリメ長 三ミリメ廣 歩脚

の長さ I—二九 II—二二 III—一 一八・四ミリ

メ 体部は凡べて黒色にして濃血褐色を混ず、頭胸部は雌

雄共に廣き赤白色に見ゆる縦條一個あり、腹部背面は雌にては淡黄白色を帯び雄にては頭胸部の如く縦條あり、Palpal organ 等 *Lycosa coelestis* L. Koch のに酷似す、歩脚 I II の腿節より脛節までは三節は全黒色

III の腿節は全黒色 III のは一部のみ黒色 各脚共残り節は濃血褐色 脛節までは皆太し、刺あり毛も多し 雌のは黒色部が濃血褐色に近し

産地 羽前國米澤市南松土手 吉田貞次君の四十三年五月十七日に採集せるところ 同君のくも標品 No. 28. No. 34. 乃ち之なり。

(編者曰)本文の二新種は他にて學界に發表せらる、由なれば本誌の主義に反するも茲に載せる事になせし者なり

●昆蟲學研究法(四)

理學士 矢野宗幹

十七、Variety に二つの意味あり

變種(Variety)と云ふのには二つの意味がある、前にも云つたから大體は明かであるが茲に言ひ換へやう、或學者は一種の生物の個體變化が余り甚しい時に其の一つ一つを變種(Variety)と云つて居る、そして其の各に